

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	経営戦略研究科後期課程
大項目	7 国際交流 (研究科)
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流(国内外における教育研究交流)についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流(国内外における教育研究交流)を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況(院)

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 国際交流の基本方針について、入試要項やウェブサイトに公表する	→毎年1回の要項とウェブサイトの更新とアクセス数	C	D	D	C	C
2. 国内外における提携大学院との教員・学生間の交流を拡大する	→国内外の研究科間協力を結ぶ協定大学院の数	C	C	B	B	B
3. 学内の国際教育・協力機関との連携を強化する	→CIECとの会議回数	C	C	C	B	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか ウェブサイト上で入試要項の英語版を年2回更新している。在学生19名のうち、8名が外国人学生である。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 多くの外国人学生が在籍しているが、国際交流の基本方針などについては、策定および公表しておらず、目標は達成していない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 国際交流の基本方針について定め、それをウェブサイトで公開する必要がある。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度には、提携を結ぶ英国パーミンガム大学の教員が客員教授として1ヶ月間来日し、授業及び研究指導を行った。また英国にて海外調査を行うゼミもあり、協定大学と積極的に交流をしている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 海外の大学院との交流はあるが、研究科間協定を結ぶ協定大学院の数は増加していない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か	☆
		その他	☆
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 国際教育協力センター(CIEC)とは必要に応じて連絡を取り、コミュニケーションをとっている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 国際教育協力センター(CIEC)との会議は開催していないが、随時連絡を取り、学生や教員の受け入れについて連携をとっている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も適宜連携し、国際化への対応を進める。	☆
		その他	☆
			☆
備考		☆	

## 《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【経営戦略研究科後期課程】			単位	2009	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—	—		
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		外国人留学生	正規	人	1	1	1	2	2	5	・※5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・特別学生を含む
			交換	人	0	0	0	—	—	—	・累計数 ・交換は正規以外とする。 ・大学院短期留学を含む
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	5.9	5.9	6.3	15.4	13.3	26.3	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.0	0.0	18.8	0.0	0.0	—	
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		人数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	0	0	0	0	0	・累計数 ・春・秋の合計	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)